

326
360

東京帝國大學
農科大學
千葉縣下演習林概要



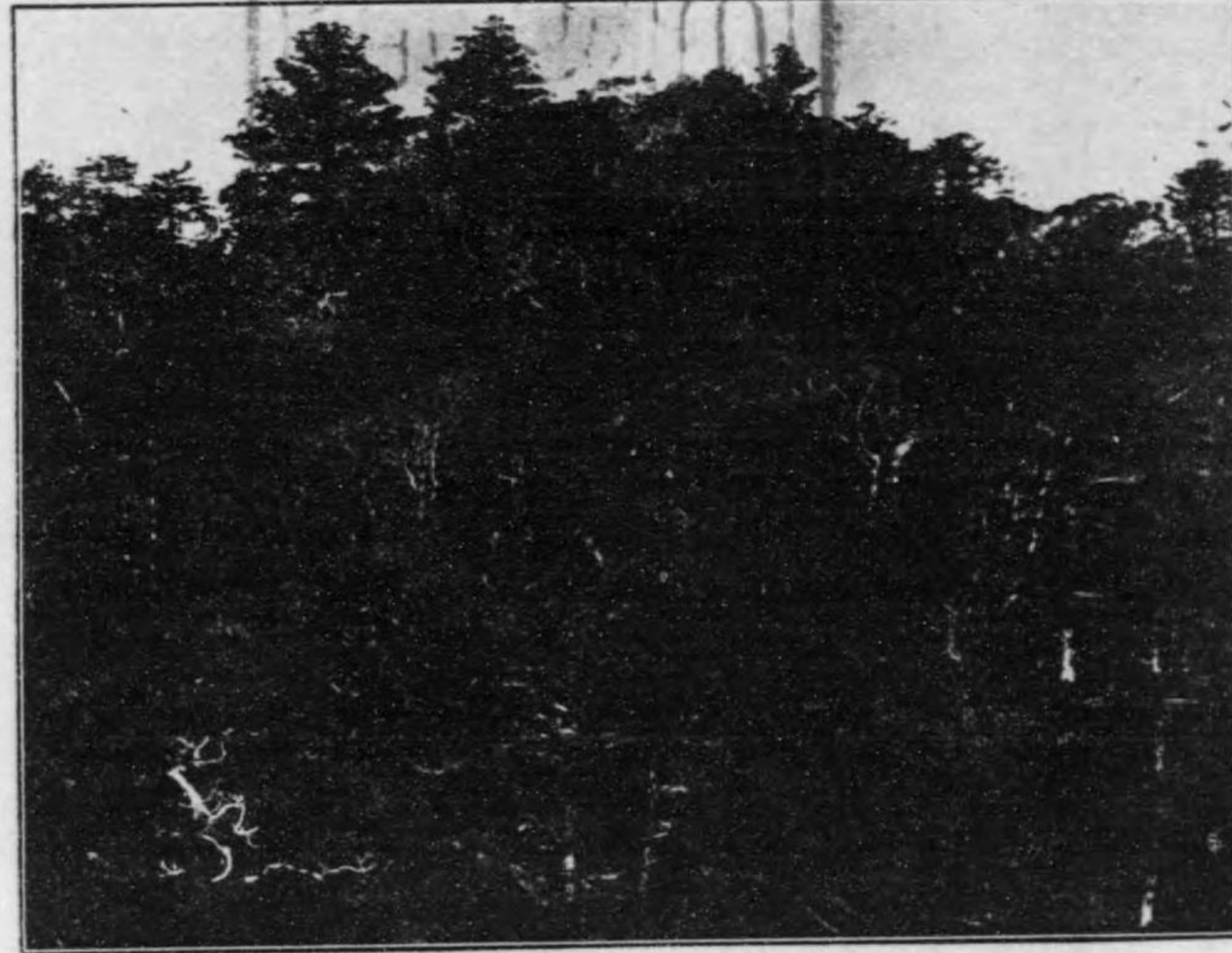
始



東京帝國大學
農科大學
千葉縣下演習林概要

326-360

淺間山天然林(第四十一林班)
暖帯北部ノ原生林ニシテ二百年以來ノ禁伐林ナリ



杉ノ老林、林齡九十五年、一町歩材積二千二百八十石(宇東漢澤第四十四林班)

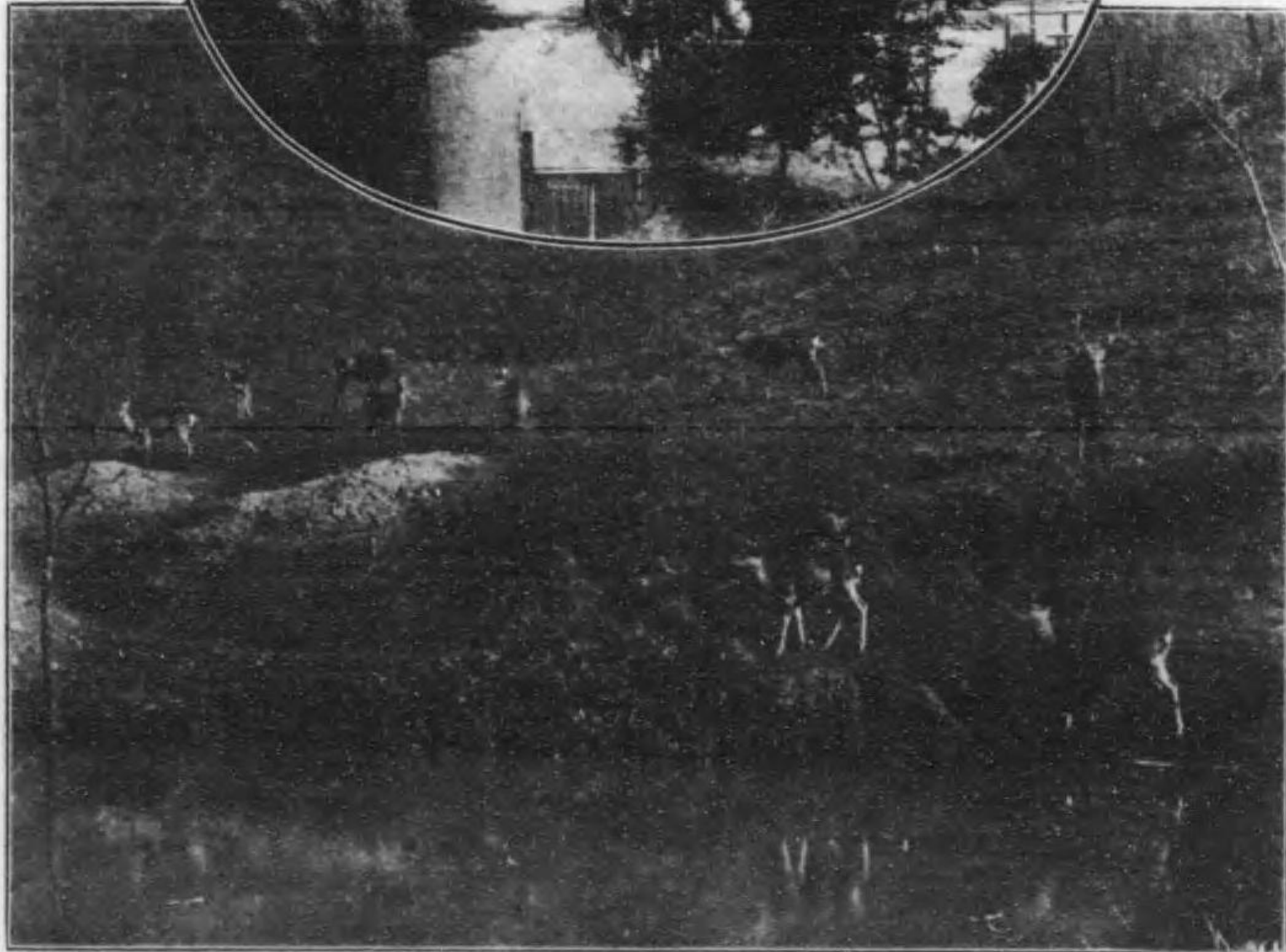


7. 8 7
内交

林杉付植年五十三治明
(地驗試長生、班林六十二第倉田郷字)



演習林派出所



(尾ヶ屋小字) 鹿ノ園獸野

東京帝國大學
農學大科
千葉縣下演習林概要目次

第一	位置及沿革	一
第二	立地	四
	其一 地形	四
	其二 地質	五
	其三 氣候	八
第三	林況	九
第四	經營ノ概要	一一
	其一 施業計畫	一一
	其二 造林及保護	一六
	一 苗圃	一六
	二 植栽	一八
	三 保護	二二
	其三 利用	二五
	一 用材	二五

二	製炭	二六
三	雜產物	三一
四	林道	三二
第五	學生生徒ノ演習	三五
第六	試驗事項	三六
一	養魚試驗	三六
二	葉製樟腦ノ試驗	三七
三	製炭及ビ乾溜試驗	三七
四	椎茸培養試驗	三八
五	各種造林試驗	三八
六	森林氣象觀測	三八
七	森林治水試驗	三九
八	野生動物飼養試驗	三九
第七	見本林	四〇
附錄(一)	演習林樹木名彙	四一
附錄(二)	演習林杉形數表	五三

東京帝國大學
農科大學 千葉縣下演習林概要



第一 位置及ビ沿革

本演習林ハ房總半島ノ東南部安房國安房郡天津町ヲ距ル北西一里乃至四里ノ間ニ位シ其總面積二千二百四十九町步餘房總ノ國界ヲナセル分水嶺本林西南部ノ境界ヲ東南ニ走リテ本林ヲ橫斷シ之ヲ奥山及清澄ノ二地域ニ分ツ

奥山々林ハ上總國君津郡龜山村ニ在リテ小櫃川ノ上流七里川及ビ猪ノ川ノ兩流域ニ亙リ面積千九百二十一町步餘東ハ郡界分水嶺ニ依リテ夷隅郡筒森國有林ニ境シ北方一帶ハ龜山村ノ私有地公有地ニ西ハ概ネ龜山村字片倉地先國有林ニ隣リ南西ハ房總ノ國界ニ依リ安房郡東條村公有林ニ接シ東南部ハ清澄山林ニ連續ス而シテ本林内ヲ北走スル七里川ニ沿フテ龜山村字四方木及ビ黃和田畑ノ二部落アリ

清澄山林ハ安房郡天津町字天津ノ内坂本及ビ字清澄兩區ノ地先ニ在リテ面積三百二十八町步弱其東南部ハ天津町公有林ニ境シ西南ハ同町字濱萩ト東條村三區ノ入會山林天津町公有林及ビ私有林ニ接シ北ハ奥山々林ニ連ル此地ハ房州ノ巨利千光山清澄寺ノ在ル所ニシテ本學演習林派出所亦此處ニ設ケラル

本林成立ノ沿革ヲ按スルニ清澄山林ハ元和二年徳川家康ノ寄進ニヨリ清澄寺寺領トナリ爾來御朱印地トシテ存シ寛政年中時ノ住職明範ナル者夙ニ山林造成ノ要務ヲ察シ寺中及ビ門前ノ住民ニ諭告シ大ニ植林ニ力ヲ盡サシム是レ現存セル杉林ノ成立シタル所以ナリ後明治四年一月社寺上地處分ニ依リ境内十四町歩ヲ殘シ他ヲ悉ク上地シテ官林ニ編入セラル

又奥山々林ハ舊龜山郷ニシテ徳川氏ノ時ニ當リ武州川越藩主後前橋藩主松平大和守ノ所領トナル文化ノ頃ヨリ所謂御手山ト稱シ矮林及ビ中林下木ヲ伐採シ盛ニ製炭ヲナシタリ而シテ樅其他ノ上木ハ多ク留木トシ濫リニ伐木ヲ許サズ唯藩ノ所要ニ應ジテ僅カニ利用シタルニ過ギズ後明治元年戊辰花房藩主西尾隱岐守ノ所領トナリ又明治四年七月廢藩ノ際清澄山林ト共ニ宮谷縣ノ所管トナリ同縣廢セラレ木更津縣ニ移リ次デ同六年六月千葉縣ニテ所管スルコトトナリ明治

二十二年十月各地ニ大林區署ノ開設セララルルニ當リ清澄山林ハ東京大林區署大多喜小林區署又奥山々林ハ同大林區署久留里小林區署ノ管理スル所トナレリ
超エテ明治二十五年十二月當時本學助教教授タリシ本多博士學生實地指導旅行ノ爲メ鹿野山ヨリ奥山方面ヲ經テ此地ニ至リ其淺間山原生林茲ニ附近一帶ニ存スル林相狀態ノ最モ林學ノ實習研究ニ適當セルヲ認メ演習林設置ノ議ヲ起シ遂ニ同二十七年十一月清澄官林ヲ本學所屬演習林トナセリ是レ實ニ本學演習林ノ嚆矢ニシテ又本邦ニ於ケル學校附屬林ノ濫觴タリ而シテ其當時本林ハ一方杉樅等ノ喬林及ビ樅類ノ常綠闊葉樹林存在セシモ又一方ニハ廣大ナル未立木地及ビ原野尠カラズシテ林區署時代ノ新植地トシテハ僅々三十町步弱ニ過ギザリシカバ逐年林相ノ整理無立木地ノ造林ニ努ムルト同時ニ隣接原野ノ火入延燒ニ因ル災禍ヲ警メタリ然レドモ其地域僅カニ三百三十六町步餘ニシテ未ダ以テ完全ナル一施業區トナスニ足ラザリシガ故ニ更ニ隣接地タル奥山官林ヲモ之ニ加ヘン事ヲ主務省ニ提議シ明治三十一年二月其東半部千八百三十六町九反歩ノ交付ヲ受ケタリ爾來或ハ民有地ノ購入交換又ハ寄附若シクハ官有地ノ組替等ニヨリテ面積次第ニ擴張セラレ以テ現域ニ達セリ

本演習林ノ所在地方ハ大體ニ於テ丘陵各所ニ起伏シ高峯峻嶺ノ聳ユルナキモ而モ廣漠タル平野ヲ見ズ之レガ爲メ地方住民ハ山野ノ間苟モ鋤犁ノ施スベキ地アレバ必ズ之ヲ耕耘シ或ハ深ク狹隘ナル溪間ニ入り或ハ比較的平易ナル山腹ヲ攀ヂテ梯階狀ノ農地ヲ開ク然レドモ自然ノ地勢上到底廣キ農耕地ヲ得ルコト能ハズ之ガ爲メ當地方村落ノ住民ハ大半山林ニ入りテ所謂山稼ヲナス即チ製炭ヲ第一トシ木挽伐木運材木材加工等ノ業之ニ亞グ

第二 立地

其一 地形

本林ハ上總臺地ノ一部ヲ占メ地形學上幼年末期ニ屬スル一ノ隆起臺地ニシテ山頂ハ到ル處高距ニ大差ナク(三百五十米内外)明カニ臺地ノ特相ヲ具フレドモ河流ハ既ニ深キ溪谷ヲ穿チ山側ノ傾斜甚ダ急峻ニシテ往々斷崖ヲナシ谷底ニアルモノハ其ノ臺地ノ中ニアルヲ覺ヘズ却テ崎嶇タル山貌ヲ眼前ニ視ルヲ此地方ノ特色トス上總臺地ハ鴨川平野及ビ天津勝浦間ノ「リアス」式海岸ヲ其ノ南邊トシ南ヨリ北ニ向テ平均三十五分ノ緩傾斜ヲナスサレバ臺地ノ分水界ハ南端ニアリテ

其ノ位置ハ略房總二國ノ國境ニ一致ス分水界以南ノ諸溪流ハ臺地南端ノ斜面ヲ流下スルモノナルガ故ニ全流ヲ通シテ急湍瀑布多ク而シテ長サハ僅ニ一二里ヲ超エス其ノ受水區域モ亦長サニ比シテ更ニ小ナリ分水界以北ノ諸川ハ何レモ臺地ノ上ニ北ニ向テ流ルルガ故ニ其ノ上流ガ上述ノ如ク深キ溪谷ヲ穿チテ兩岸ノ傾斜峻急ナルニ係ラス水勢極テ緩ニシテ河床ハ平タク板ヲ敷キタルガ如ク流路ハ甚シク屈曲蛇行スルコト十數里ニシテ始メテ海ニ入ル演習林内ヲ貫流スル小櫃川ノ如キ其ノ最モ著シキモノニシテ本川ハ其ノ長サノ大ナルニ伴ヒテ受水區域モ決シテ狭カラズサレド演習林内ハ其ノ上流區域ニアルヲ以テ河畔ニハ殆ド沖積低地ヲ見ルコトナク只處々ニ洪積段丘ヨリ成レル第二臺地ノ發達セルアルノミ四方木盆地仙石臺郷臺安野臺ノ如キ其ノ稍著シキモノナリ

其二 地質

本林内ニ現ハル、地層ハ之ヲ第三紀層ト第四紀層トニ大別スルコトヲ得第三紀層ハ林内山地ノ基骨ヲナスモノニシテ其ノ分布區域ハ房總半島ノ全部ニ互レドモ演習林ニ關係セル部分ノミヲ累層ノ順次ト主要岩類トニヨリテ區分スレバ左ノ三部十一層トナスコトヲ得古キモノヨリ新シキモノニ及ブ

A. 下部

(一) 坂本層 石灰質若クハ非石灰質ノ泥板岩ヨリ成リ砂岩凝灰岩等ノ薄層ヲ挾ム

(二) 妙見層 數種ノ凝灰岩及ビ凝灰質泥岩ヲ主トシ稀ニ砂岩凝灰岩等ヲ挾ム

(三) 清澄層 黃褐色内部ハ青灰色中粒ノ砂岩ヲ主トシ泥岩凝灰岩等ノ薄層ヲ挾ム

B. 中部

(四) 眞根層 凝灰質若クハ石灰質ノ泥岩ヲ主トシ砂岩凝灰岩等ヲ挾ム

(五) 白岩層 諸種ノ凝灰岩及ビ凝灰質泥岩ノ累層ニシテ其ノ間ニ砂岩凝灰質砂岩等ヲ挾ム

(六) 仙石層 赤褐色内部ハ青灰色細粒砂岩ト凝灰質若クハ石灰質泥岩トノ互層ニシテ稀ニ凝灰岩ヲ挾ム砂岩トノ比ハ七ト三ノ如シ

(七) 安野層 石灰質若クハ凝灰質泥岩ト赤褐色細粒砂岩トノ細カキ互層ニシテ兩岩ノ比ハ泥岩六砂岩四ノ割合ナリ

(八) 黒瀧層 諸種ノ凝灰岩ノ外凝灰質砂岩凝灰質礫岩凝灰質泥岩等ヨリ成ル

C. 上部

(九) 黃和田層 泥灰岩若クハ泥灰質泥岩ヲ主トシ砂岩凝灰岩ノ薄層ヲ挾ム

(十) 藏玉層 赤褐色細粒砂岩ヲ主トシ泥岩ノ薄層ヲ挾ム

(十一) 折木層 泥灰質泥岩ト細粒砂岩ノ互層ヨリ成リ下部ハ泥岩ニ富ミ中部ハ砂岩ヲ主トシ上部ハ兩岩ノ比殆ド相同ジ

下部Aト中部Bトハ四方木大斷層線ト名クル一大斷層ニヨリテ境セララル下部三層ハ此斷層以南ニ限リテ分布セラレ層中ニ小斷層非常ニ多クシテ地層ノ轉位甚シク各層全幅ノ厚サ及ビ各層ノ分布區域ヲ知ルコト困難ナリ然ルニ該大斷層以北ニ在リテハ四方木大斷層ニ近ク一背斜軸ヲ存スルノ外中部及ビ上部ノ諸層整然北ニ傾キテ整合シ只上部ト中部ト間ニ稍不整合ヲナセル所アルヲ例外トス層位ハ概ネ北七十五度西ヨリ北五十度西ノ間ニ變移シ傾斜ハ北東三十度乃至六十度ノ間ニアリ

四方木大斷層ハ四方木盆地字坂本ノ縣道ニ沿ヒタル切取面ニ於テ明ニ其ノ存在ヲ觀察スルヲ得ベク夫ヨリ一方ハ西々北ニ延ビテ猪ノ川上流ニ至リ他方ハ東南ニ走リテ二間川本流ト東漢澤ノ合流點附近ニ及ブ之ヨリ以南流習林外
上記十一層ハ何レモ多少ノ化石ヲ産シ黒瀧層及ビ眞根層ノ下部尾澤附近ニ殊

ニ多シ化石ノ種類ハ貝類ヲ主トシ其他少許ノ海膽類・蘚蟲類・甲殼類・魚類（魚類ニ屬スル動物化石ノ外石灰藻類及ビ木葉化石（湖葉樹）アリ此等ノ化石群ニ就テ見ルニ、第三紀層ノ下部三層ハ中新統ニ屬シ中部ト上部トハ最新統ニ屬スルモノノ如シ）

第四紀層ハ演習林内ニ於テハ河流沿岸ノ第二臺地ニ洪積層ノ發達スルアルノミ。沖積層ハ其ノ發達極メテ少ナク森林トハ殆ド無交渉ナリト云フモ妨ゲナシ。洪積層ハ七里川・猪川・濁川・二間川等ノ河成段丘ヲ構成シ主トシテ豆大乃至桃實大ノ礫ト砂トノ互層ヨリ下リ下部ニハ礫多ク上部ニハ砂多キヲ普通トス而シテ段丘上ニハ削磨作用ノ働クコト少キヲ以テ土壤厚ク堆積シ第三紀ノ傾斜急ナル山側トハ大ニ趣ヲ異ニセリ

其三 氣候

本演習林所在地タル房總半島ハ本州ノ東南部ニ位シ太平洋面ニ突出シ暖流ノ影響ヲ受クルコト多大ナルヲ以テ其氣候ハ緯度ニ比シ甚シク温暖多濕ニシテ且ツ夏冬ノ溫差小ナリ、今明治三十八年ヨリ大正三年ニ至ル十ヶ年間ノ觀測ニヨリ其氣候ノ概要ヲ擧ゲレバ次ノ如シ

空氣溫度（攝氏） 一ヶ月ノ平均氣溫ハ二三・八八度ヨリ四五・五五度ノ間ニアリ、最高ハ八月ニ於ケル二七・五七度、十年間ノ最極ハ明治四十四年八月二十八日三四・六度、最低ハ二月ニ於ケル零下〇・六三度、最極ハ明治三十九年一月二十二日零下九・一度、空氣濕度 空氣ハ概シテ濕潤ニシテ霧多ク即チ其濕度ハ一ヶ年平均七五%、最濕ノ季節即チ梅雨季ヨリ夏季ニ及ンデハ八二—八五%ナリ

降水量 當地ハ千葉縣下ニ於ケル雨量最多ノ地ニシテ一ヶ年平均一八五〇耗時ニ二〇〇〇耗ヲ越ユルコトアリ而シテ九月ニ最モ多ク十二月ハ最モ少ナシ、霜雪 結霜ハ多ク十一月ニ始マリ三月ニ終ル然レドモ其回数ハ少ナシ降雪ハ一ヶ年中唯二三回アルノミニシテ殆ンド堆積スルコトナシ、風 冬期ハ概ネ北風又ハ西北風、夏期ハ南風吹キ又孟春ヨリ夏ニ至ル間南若シクハ南々東ノ暴風襲來スルコト屢ナリ

第三 林況

本林ハ之ヲ森林帶ヨリ云フ時ハ暖帶北部ノ殆ンド中心ニ位ス即チ此地固有ノ林相ヲ維持セル淺間山ニ於テハかし、しひ、たぶノ類ヲ主木トシおせび、しきみ、さか

き、ひさかき等ノ下木ヲ有シ峯通リニハもみ、つがノ大木ヲ交へ溪谷ニ沿フ處ニハ往々もみぢ、けやき、あかめがしは等ノ落葉濶葉樹混生シ所謂常綠濶葉樹帶ノ典型ヲ表ハス而シテ此等固有ノ林木濫伐セラレ且ツ屢、火災ニ罹リシ部分ハこなら、あかまつノ類混生シ若シクハ全ク萱生地トナリ又其常綠濶葉樹ノミヲ伐採利用シタル區域ハもみ、つがヲ上木トシかし、しひ、たぶ其他ノ常綠及ビ落葉樹ヲ下木トセル中林状態トナレリ其他清澄及ビ奥山ノ諸方面ニ互リ從來ヨリすぎヲ植栽セル部分大小ノ團地ヲナシテ存在ス本演習林ノ設置以來未立木地及ビ不完全立木地ハ努メテすぎ及ひのきヲ植栽シ又中林ノ内或部分ハもみ、つが等ノ上木ヲ伐採シ一時かし、しひ等ノ矮林トナシ更ニ之ヲ喬林ニ變更スルコトトセリ

今全演習林ヲ其林況ニヨリ類別スル時ハ次ノ如シ
すぎ、ひのき喬林(少許ノさはらヲ含ム)

幼齡林(二〇年以下)	五四六、四一
壯齡林(二一―四〇年)	四八六、〇四
老齡林(四一年以上)	二〇、三一
まつの喬林(二〇年以下)	四〇、〇六
	七八八

くす、かし喬林(二〇年以下)	六五四
中林	七五八、〇一
矮林	八五九、四一
禁伐林及風致林	八四五
林木見本林	一四、〇一
苗圃	四、三三
野獸園	五、一四
刈上場、原野及農地	三二、七九
建物敷地	三、九三
部分林及貸地	二、四六
合計	二、二四九、三六

第四 經營ノ概要

其一 施業計畫

本林ハ其設置後先ヅ境界ノ査定測量及ビ林況ノ調査ヲ爲シ且ツ差シ當リ未立

木地ノ造林ヲ行ヒ又其地勢地質ノ如何ニ鑑ミ各種林木ノ生長ヲ調査シ又一方地方ノ民情一般經濟ノ關係並ニ學術上ノ實習及ビ研究ノ方法等ヲ考究シ施業經營案編成ノ豫備ヲナシ明治三十八年第一次(三十八年ヨリ四十二年ニ至ル)ノ經營案ヲ編成セリ

該案ハ全林ヲ清澄及ビ奥山ノ二施業區ニ分チ清澄施業區ハ學術ノ實習及ビ研究ニ重キヲ置キ奥山施業區ハ主トシテ經濟的ノ經營ヲナスベキ方針ヲ採レリ當時清澄施業區總面積三百三十九町歩ノ内約二百五十町歩ヲすぎ、ひのきノ喬木トシ六十二町歩ハ植栽困難ナルガ爲メ雜木ノ自生ニ委シ十三町歩ヲ試驗造林地及ビ矮林施業地ニ充テ十四町歩ヲ禁伐林見本林其他ノ除地トシ又奥山施業區ハ約千二百三十三町歩ヲすぎ、ひのきノ喬林トナシ五百二十八町歩ヲ雜木自生地四十町歩ヲ試驗造林地及ビ矮林五町歩ヲ苗圃其他ノ除地トシテ經營スル豫定ナリキ而シテ其すぎ、ひのき喬林豫定地ハ大部分中林若クハ矮林ニシテ之ヲ二十五區ニ分チ毎年各區伐採跡ノ約二分ノ一ヲ造林シ殘部ハ尙一回矮林トシテ作業シ二十五年ノ後更ニ之ヲ伐採シテ造林ヲナシ結局五十年ノ後全部ノ整理ヲ實行スル方針ニシテ是レ實ニ該經營案ノ骨子トモ稱スベキナリ

今其第一次經營案ニ於ケル整理豫定ノ要領ヲ舉グレバ次ノ如シ

整理案要領

施業期	奥山施業區			清澄施業區			合計		
	整理地	造林	平均一箇年	整理地	造林	平均一箇年	整理地	造林	平均一箇年
第一期 自明治三十八年 至明治四十二年	九〇町歩 二四・五町歩	五八町歩 四九・〇町歩	二七・八町歩	四八町歩 四八・四町歩	五・五町歩	九・七町歩	三八町歩 〇八・二九・九町歩	六三町歩 六三・六町歩	五八・八町歩
第二期 自明治四十三年 至明治五十二年	六六町歩 三三・〇町歩	六・九町歩	五・二町歩	一九・二町歩	五・三町歩	一・九町歩	六七・七町歩 三七・九町歩	六三・三町歩	三七・三町歩
第三期 自明治五十三年 至明治六十二年	〇六・三町歩 三八・二町歩	六・一町歩	五・七町歩	五・三町歩	五・四町歩	五・四町歩	六六・四町歩 四二・五町歩	四・七町歩	四・五町歩
第四期 自明治六十三年 至明治八十七年	九一・五町歩 五四・九町歩	三・三町歩	三・九町歩	三・八町歩	三・七町歩	三・七町歩	七〇・九町歩 二七・三町歩	三・八町歩	三・七町歩

上掲ノ豫定ニ對シ之ガ實行ノ結果ヲ見ルニ明治四十二年ニ至ルマデ中林矮林及ビ原野地ヲすぎ、ひのきノ喬林ニ變更セシ面積兩施業區ヲ通シ百六十五町五反歩是ニ本案實施以前ノ造林地ヲ加ヘ三百八十五町八反歩トナル

第一次經營案ノ實施セラルルコト五ヶ年即チ明治四十二年ニ其第一期ヲ終ルヤ從來ノ成績ニ照ラシ此ニ第二次ノ改定施業案ヲ編成セリ是レ第二次改訂施業

計畫ニシテ其根本方針ニ於テ第一次ノモノト異ナル所ナキモ清澄奥山兩施業區ノ區別ヲ廢シ兩區ヲ併セテ一施業區トシ同時ニ林班ノ分合ヲ行ヒ全林ヲ四十七箇林班トシ其作業種別面積ヲ次ノ如クセリ

一、施業外地 八十六町二反歩 全面積ノ三・九五%

定置苗圃、禁伐林、見本林、野獸園、原野、岩石地、貸地、建物敷地、道路、水面等

二、特別施業地 四十町九反歩 全面積ノ一・八七%

持種用材保存林、風致林、試驗用造林地、試驗用中林地、部分林、刈上場等

三、普通施業地 二千五十四町歩 全面積ノ九四・一七%

主トシテすぎ、ひのきノ喬林トナスベキ區域ニシテ内雜木ノ自生ニ委スル部分ハ之ヲ不全施業地トシテ取扱フコトトス

以上ノ内普通施業地ハ既成造林地ヲ除ク外ハ大部分矮林若クハ中林ニシテ之ガ整理ノ方法ハ第一次經營案トハ稍異ナリ第一次五箇年間ニ伐採セシ殘餘ノ面積ノ約二十分ノ一ヲ年々伐採シ矮林地ハ之ヲ皆伐シテ其三分ノ一ヲすぎ、ひのき植栽地トシ殘リ三分ノ二ハ尙一回矮林トシテ作業シ又中林地ハ其三分ノ一ヲ皆伐シテ造林ヲナシ三分ノ二ハ下木ノミヲ伐採シ上木ハ生長不良ノモノ又ハ用材

ニ適セザルモノノミヲ伐採シ他ハ之ヲ保存シ尙一回中林トシテ取扱ヒ二十箇年ノ後ヨリハ更ニ二十五箇年ノ期間ヲ以テ第二回ノ矮林伐採及中林皆伐ヲ行ヒ其伐採跡ハ總テ喬林トナシ將來四十五箇年ニシテ全林ノ整理ヲ完成センコトヲ期ス斯クテ整理完了ノ後ハ大部分すぎ、ひのきノ喬林トナリ唯不全施業地ノミ永久ニ雜木林トシテ保存セラレベキナリ

其喬林ニ對スル輪伐期ハ八十年トスルモ現存老齡林ヲ逐次伐採シ盡シタル時ハ暫クハ稍若キ林木ヲ伐採シ以テ收額ノ保續ヲ計ラザルベカラズ即チ將來三十箇年ヲ經過セバ現在第二齡級以上ノすぎ、ひのきハ悉ク伐採セラレ其後ハ現今第一齡級トシテ存スルモノヲ利用スベキコトトナル

今上記ノ整理方法ニヨリ將來ニ於ケル毎年ノ收額豫定ヲ擧グレバ次表ノ如シ
毎年ノ收額豫定表

明治四十三年第二次施業案 實施ノ時ヨリ起算セル時期 整理期五十年ノ内第一次施 業實施以來既ニ五年ヲ經タ リ	杉林		矮林及中林		下木		中林		計
	材積	備考	材積	備考	材積	備考	材積	備考	
現在ヨリ十箇年間	一・五		三・三	一町歩四十棚ト 得ナルモノ	二・九	四・六町歩ヨリ 得ナルモノ	六・〇	七・八〇	、五

期後	整理	理 期 (内ノ年箇五十四)			
		十一年後ヨリ二十年ニ至ル十箇年間	二十一年後ヨリ三十年ニ至ル十箇年間	三十一年後ヨリ四十年ニ至ル十箇年間	五十年後ニ至ル十五箇年間
六十六年以降	四十六年後ヨリ六十年ニ至ル廿箇年間	三十一年後ヨリ四十年ニ至ル十箇年間	二十一年後ヨリ三十年ニ至ル十箇年間	十一年後ヨリ二十年ニ至ル十箇年間	
其他間伐材	其他間伐材	其他間伐材	其他間伐材	其他間伐材	
四、五三	三、一六	一、五〇	一、五〇	一、五〇	
一五〇同	一五〇同	一、七〇	一、七〇	一、七〇	
		不全施業地ニ於テ伐採シ得ルモノ	不全施業地ニ於テ伐採シ得ルモノ	不全施業地ニ於テ伐採シ得ルモノ	
		一五〇同	一五〇同	一五〇同	
		七同	七同	七同	
		六、三〇	六、三〇	六、三〇	
		七、八〇	七、八〇	七、八〇	
		一、八五〇	一、八五〇	一、八五〇	
		三、一六	三、一六	三、一六	
		四、八、五三	四、八、五三	四、八、五三	
		一五〇	一五〇	一五〇	

右ノ第二次改訂施業計畫ハ五箇年間ノ實行ノ後大正三年末ニ於テ更ニ檢訂シテ第三次改訂施業計畫ヲ編成セリ該施業計畫ハ其根本方針ニ於テハ第二次改訂施業計畫ニ從ヘリ只此時期ニ方リ本演習林ノ測量終了シ精密ナル基本圖完成セルヲ以テ林班小班ノ面積ニ大修正ヲ加ヘタルアルモ其他ハ大同小異ナリ

其二 造林及保護

一 苗圃

苗圃ハ明治三十三年郷臺畑ニ設置シタルニ創マリ今日ニ至ル迄清澄札郷及ビ

郷臺方面ノモノヲ併セ合計四町三反三畝歩ニ達セリ即チ次ノ如シ

清澄方面 一町四反三畝歩

仁ノ澤(明治三十八年)及ビ小屋ヶ尾(明治四十二年)

札郷方面 一町三反五畝歩

札郷(明治三十六年) 前澤(同上) 中澤(同上) 濁川(同上)

郷臺方面 一町五反五畝歩

郷臺(明治三十三年)

以上ノ苗圃地ハ其開拓當時ニ於テハ何レモ適潤肥沃ニシテ種苗ノ發芽生長共ニ頗ル良好ナリシガ三四年ヲ經過シタル後ハ地力漸ク衰へ無肥料ニテハ到底完全ノ苗木ヲ得ル能ハザルニ至リシヲ以テ綠肥堆肥或ハ油粕人糞糠等ヲ給シ或ハ大豆小豆等ヲ輪作シ地力ノ回復ヲ計レリ
今明治三十八年ヨリ大正四年ニ至ル間ニ生産セシ苗木ノ總本數ヲ擧グレバ次ノ如シ

樹種

すぎ

生産山出苗總本數

一、七五四、八九七_本

内本林ノ造林ニ用ヒタル本數

一、三六八、八一四_本

ひのき

六四〇、一〇四

五五〇、二二三

あかまつ

四二七〇〇

くす

四七二五

四七一五

計

二、四四四、四二六

一、九二三、六五二

苗圃ニ使用スル種子ノ内すぎひのきハ主トシテ吉野産ノモノニ依リ近時ハ幾分地方産ノモノ又比較研究用トシテ秋田産ノモノヲモ用フ、くすハ熊本地方ヨリ供給ヲ受ク而シテ從來ノ經驗ニ徴スレバすぎ山出苗百本ノ生産費ハ二十錢弱ひのき多クハ四年生ハ二十二三錢トナル只近時ニ至リ赤枯病ノ豫防ノ爲ぼると一液注射ノ費用トシテすぎ百本ニ付此外約三十錢ヲ要ス

二 植 栽

本演習林ノ設置セララルヤ差當リ未立木地ノ植栽ニ極力意ヲ用ヒ爾後矮林中林ノ伐採跡地ノ幾分ニ植栽シテ林相ノ改良ヲ計リタリ即チ明治二十八年ヨリ大正四年ニ至ル二十一年間ニ植栽セシ總面積ハ五百十五町〇一畝歩ニシテ之ヲ植栽樹種ニヨリ類別スレバ次ノ如シ

植栽樹種

すぎ 五〇五九八
ひのき 二七二
あかまつ 〇六三
くろまつ 一、二二
からまつ 四、一六
くす 一、二、二三二
けやき すぎひのきニ混植 二〇〇
くぬぎ 〇、三〇
計 五、一五〇一

二、一九八、八四六
六八九、五二〇
一、一三四
三、九〇〇
五、二九六(火災ニシテ機失)

其造林ノ方法ハ二月初旬ヨリ地拵ニ著手シ三月下旬ヨリ植付ヲ始メ四月末ニ完了スルコトトセリ又其植付距離ハ地況ニ從ヒ四尺五寸乃至五尺トシ即チ一町歩當リ四千三百二十本ヨリ六千七百五十本ニ至ルヲ普通トス而シテ今日迄植栽

セシ總面積ニ付キ平均セバ一町歩約五千四百本トナル
植栽樹種ハ主トシテすぎひのきヲ用ヒすぎハ多ク溪谷ニ沿ヒ漸ク山腹ヲ登ルニ從ヒテひのきヲ交へ上部ハ全クひのきヲ植ユ又峯通リ風當リ強キ所或ハ極メ

テ乾燥セル部分ニハまつヲ植エ或ハ斯ノ如キ部分ハ自然ニ成立セルもみ、つが、ま
つ及ビ雜木ヲ維持シ防風防火ノ用ニ供ス又急峻ノ部分或ハ岩石地ハ人工造林ヲ
ナサズシテ是亦自然發生ノ樹木ヲ維持スルコトトセリ又全クノ無立木地ニ造林
スル場合ニハ防火用トシテ峯通リニ潤葉樹ヲ自生セシメ或ハ植栽セルコトアリ
又くすヲ造林スルニハ保護樹トシテなら、かし等ヲ帶狀ニ保存シタリ凡テ造林ハ
何レモ苗木植付ノ法ニヨルト雖モ試験用又ハ實習用トシテ播種造林、挿木造林ヲ
モ實行セリ

新植地ハ植付ノ初年七八月ノ候一回下刈ヲナシ爾後四年乃至五年間之ヲ行ヒ
其後ハ唯蔓切リヲナスニ止メ十一二年ヲ經テ弱渡ノ枝打ヲナシ以テ樹形ヲ整へ
且ツ火災ノ防備トス
今上掲ノ方法ニヨリ實行セルすぎ、ひのき一町步當リノ造林費ヲ擧グレバ次ノ
如シ

すぎ、ひのき造林費明細表 (一町步當平均)

(大正四年末調査)

費目	員數	單價	總價	備考
植付用 蒺代	一〇枚	〇・五〇	五〇〇	蒺一枚ニテ苗木三百本ヲ包ミ再度使用ス
同上 繩代	一把	〇・七〇	〇・七〇	一把百尋物
苗木代	五、〇〇〇本	〇・二五	一二、五〇〇	運搬費共
地 拵 費	二〇人	三五〇	七、〇〇〇	
植 付 費	三〇人	三五〇	一〇、五〇〇	一人一日百六十乃至百七十本植
第一回下刈費	一〇人	三五〇	三、五〇〇	
第二回下刈費	一二人	三五〇	四、二〇〇	
第一回補植苗木代	五〇〇本	〇・〇四	二〇、〇〇〇	一割ノ補植ニシテ苗木代ハ運搬費ヲ含ム
同上 植付費	五人	三五〇	一、七五〇	一人一日百本植
第三回下刈費	一五人	三五〇	五、二五〇	
第二回補植苗木代	一五〇本	〇・〇五	〇・七五〇	三分ノ補植ニシテ苗木代ハ運搬費共
同上 補植費	三人	三五〇	一、〇五〇	一人一日五十本植
第四回下刈費	一六人	三五〇	五、六〇〇	
第五回同	一六人	三五〇	五、六〇〇	
第六回同	一五人	三五〇	五、二五〇	
第一回蔓切費	一四人	三五〇	四、九〇〇	

第二回 蔓切費	一三人	・三五〇	四・五五〇	
枝打費	三三人	・三五〇	一一・五五〇	枝打樹ハ植付當時ヨリ二割減即チ 四千本存在ス 大ハ地上十二尺迄枝打ス 小ハ地上六尺迄枝打ス 一人一日百二十本強
合計			八六・五二〇	

三 保護

本林ハ其演習林トナリシ當時ニ於テハ大部分原野ヲ以テ圍繞セラレ之ガ爲メ
火災ノ危険多カリシヲ以テ極力其延焼ニ對スル防備ヲ圖レリ即チ本林内ニ存在
セル草生地ニハ植栽ヲナシ或ハ民有原野ニ向テ植林ヲ勸誘シ或ハ地元村ニ各種
ノ便益ヲ與ヘテ防火ニ盡力セシメ又新植地ノ周圍ニハ防火線ヲ設ケ或ハ常綠闊
葉樹ノ防火帶ヲ保存シ或ハ適宜ノ枝打及ビ枯枝ノ掃除ヲナシ又近年奥山方面ニ
二箇所(檜尾及ビ札郷ノ高地)ノ火見番所ヲ設ケ晩秋ヨリ早春ニ至ル間ハ常詰火ノ
番ヲ置キ電話ヲ架設シ警戒ヲナス又行路者及ビ狩獵者ノ入林ニ注意シ巡視員ヲ
置キテ巡林ヲ周到ニシ尙又最近天津駐在ノ警察官ニ本林ノ保護業務ヲ委嘱シ以
テ盜伐及ビ火災保護ノ補助ヲナサシム

以上ノ如ク森林火災ニ對シテハ十分ナル注意ト警戒ヲナセル結果今日迄未ダ

甚シキ災害ヲ蒙リタルコトナク只ダ僅カニ造林地ノ幾分ニ被害アリシノミ即チ
次ノ如シ

火災統計

(大正五年五月調)

年 月 日	字	林班、小班	面積	被害程度	原因
明治二十九年十一月	梨ノ木臺	四三林班ノ内	町六〇畝	五年生杉林殆ド全部焼失 僅二十數本ヲ殘ス	不明
同 三十三年 四月	櫻ガ尾	〃	〇・三〇	少許ノ下木焼失ス	煙草殘火?
同 三十五年三月十一日	長 坂	四五j(見本林)	一・四〇	クマガ、クロマツ、イテ フ、ケヤキ、カラマツ、 カツラ等見本林ノ一部及 ヒノキ、マキ、クマガ等七 百本焼失	過失
同 三十七年二月十七日	硯 石	四七b内	六・五〇	矮小ノ雜木及五年生落葉 松造林地ノ一部焼失	煙草火?
同 三十八年二月十七日	硯 石	四七bd内	五・〇〇	矮小ノ雜木及落葉松造林 地ノ一部焼失	同上?
同 三十九年十二月四日	切 通	四五j(見本林)	〇・〇〇	カニケルミ見本林ノ一部 焼失	同上?
同 三十九年十二月四日	大仙場	三五b内	〇・三〇	植付後六年ノ杉林ニテ杉 凡一千本焼失	同上?
同 四十年一月九日	郷田倉	二五d内	〇・八七	十三年生杉燒木約三千本	放 火
同 二月廿四日	〃	b内	〇・八五	同上	同上
同 三月三日	〃	d内	〇・一八	十三年生杉燒木七百本	同上

明治四十年一月四日	池ノ澤	二二b内	〇〇二	三十五年度植付杉、扁柏 焼木計九十本焼損	東條共有林ヨリ 類焼
同四十二年二月廿七日	四郎治澤 神田上	一四a 一六a	〇〇八 〇一五	三十四年植付杉焼木約三 百本焼損 矮小ノ雜木少許	煙草火?
同四十三年二月一日	鳥井澤	二a	二・八七	三十六年植付杉焼木七千 四百本及扁柏焼木四千九 百本全部焼損	狩獵者ノ過失
同四十五年一月十六日	細土野澤	一二b a II	〇・二〇	雜木林及四十二年度植付 杉焼木少許	煙草火?
大正二年三月十日	菅蒲澤	三六g	二・〇〇	四十年植付杉焼木一萬二 千本	大岡官林ヨリ類 焼
同 十一月	〃	〃	四・〇〇	同上 二萬四千本	大岡官林内ヨリ 再燃類焼
同 三年一月二十九日	袖ノ木澤	三d	〇・四〇	四十四年植付ヒノキ二千 五百本スギ千本	道行人ノ過失
同 二月八日	長坂	四五j(見本林)	〇・二〇	サクラ、トネリコ、イデ フ各百本クロマツ五百本	放火ノ嫌疑アリ

次ニ盜伐誤伐或ハ境界侵入等ノ被害ハ演習林トナラザル以前ニハ相當頻繁ナ
リシガ如シト雖モ現今ニテハ殆ンド記スニ足ルベキ程ノモノナシ
風害ニ付テハ暴風ノ爲メ時々杉ノ老木ヲ倒シ又ハ海面ヨリ潮風襲來シテ杉扁
柏ノ稚樹ヲ害スルコトナキニアラザルモ是ニヨリ損害ヲ蒙ルコトハ頗ル稀ナリ
只大正六年九月三十日夜ヨリ翌一日ニ亙リテ稀ナル暴風雨アリ直接其激流ニ衝
カレタル處ハ杉、樅、松ノ老木顛倒又ハ挫折シ杉扁柏ノ幼林壯齡林ハ潮分ヲ受ケ

テ其葉紅凋シ其被害尠カラザリシカド斯ノ如キハ空前ノ例ニ屬スルモノナラン
雪ノ害ニ付テハ嘗テ大正元年十二月二十八日及二十九日ノ降雪ニヨリ奥山方
面ニ於テ十年生以上ノ幼林木約二萬本ヲ倒折シタルコトアリシガ是レ亦實ニ當
地方ニ於ケル極メテ稀有ノ事ニ屬ス
又豪雨ノ害モ擧ゲザルヲ得ズ即往々ニシテ山腹ヲ崩壊シ土砂ヲ類落セシムル
コト少シトセズサレド其崩壊面積ハ大ナルモノナシ
其他動物ノ害トシテハ時ニ兔、鼠、鹿、猪或ハ昆蟲ニ害セラルルコトナキニアラザ
ルモ是レ亦被害ノ特ニ記スベキ程度ニ達スルコトナシ

其三 利用

一 用材

本林ヨリ生産スル用材ノ主ナルモノハ杉及ビ縦材ニシテ幾分ノ松、樺材又ハ少
許ノ樺、椴材ヲ出ス、其杉材ハ清澄ノ建具材及ビ海岸部落ノ船板ニ利用スルヲ最モ
重要ナル用途トシ其他地方向建築材、土工用材、桶材ニ用ヒ又小角、貫、板材、若シクハ
丸太電柱トシ且ツ幾分ハ東京ニモ輸送セラル、縦材ハ清澄ノ建具材ニ用フル外主
ニ板材トシテ東京ニ輸送セラレ、松及ビ樺ハ其生産額少量ナルモ多ク板又ハ角物

トシテ之レ又東京輸送ヲ專トス

之ヲ要スルニ當地産針葉樹用材ハ相當ノ品質ヲ備ヘ又帝都ニ對スル運輸ノ便
他ニ比シ優位ニアルモ其産額少量ナルガ爲メ未ダ以テ地方特産ノ聲價ヲ有セズ
之ガ爲メ商取引ノ聯絡ナク現今ニテハ只僅カニ地方需要ヲ待ツノ外ナキナリ即
チ將來當林及ビ附近國有林又ハ私有林ヨリ盛ニ用材ヲ産出スルニ至ラバ都會ノ
大需要ヲ供給スルヲ得ベキヤ必然ナリ

用材ノ賣却方法ハ主ニ立木賣却ニシテ是レ又其生産量ノ少額ナルガ爲メ止ヲ
得ザルニヨルナリ即チ需要ハ多ク地方向ナルガ故買受人ニ於テ其所要ニ從ヒ各
種ノ造材ヲナスヲ便トス若シ夫レ後日多額ノ産出ヲナシ一般商品トシテ取扱フ
コトヲ得ルニ至ラバ自營ニテ伐採造材ヲナスノ利益アルハ言ヲ俟タズ

二 製炭

本林特ニ奥山方面ハ古來製炭ヲ以テ名アリ舊藩時代ニハ所謂御手山ト稱シ藩
ニ於テ自營製炭ヲナシ廢藩後政府ノ主管トナリシ後ハ輪伐拂下ト名ケ地元村落
ニ原料ヲ拂下ゲ各輪伐區ニ割當テ製炭ヲナサシメタリ本演習林設置後モ其輪伐
拂下ノ制度ヲ踏襲シ來リシガ金融及ビ商取引ノ關係良好ナラザル爲メ多ク粗製

品ヲ出スノ弊アリ又製炭者ノ收利ハ勿論原本代モ十分ナラザルヲ認メタルヲ以
テ試ニ本學自ラ製炭ヲ實行シタルニ其成績頗ル良好ニシテ獨リ木炭ノ品質ヲ改
良シ得タルノミナラズ又原料ノ消費ヲ周約ナラシメ林業經濟上利スル所少ナカ
ラズ且ツ地元民モ自己製炭ヨリ寧ロ本學直營ノ製炭ニ從事スルヲ希望スルノ傾
向ヲ生ジタルガ故ニ明治四十三年以來稍大規模ニ之ヲ行ヒ即チ現今ニテハ原料
拂下ニヨル製炭ハ殆ンド往時ノ半額トナレリ

今其自營製炭ノ收支ノ概要ヲ舉グレバ次ノ如シ

製炭收支

(大正五年十二月調)

(一) 檜白炭(一窯四貫俵二十五俵ニ對スル計算)

○支出

費目	金額	備考
築窯費	〇・六五二	二十三次焼
燒歩人夫賃	五・一五〇	伐採、燒止、荷造迄
俵、繩、札木代	〇・六二五	
管理費	〇・六二五	

運	貨	一・八七五	倉庫迄運搬
計		八・九二七	

○收入

製品	數量	金額	備考
最上	二俵	一・六四〇	一俵八十二錢賣トシ
上	一八俵	一三・五〇〇	同 七十五錢
大	一俵	〇・四八〇	
小丸	三俵	一・六五〇	同 五十五錢
中	一俵	〇・三〇〇	
計	二五俵	一七・五七〇	

○差引利益金 八圓六十四錢五厘

一窯ノ原料二六五棚(百立方尺棚)
一棚ノ立木代三圓二十六錢九厘トナル

(二) 淺白炭(四貫俵二十五俵)

○支出

費目	金額	備考
燒歩人夫賃	三・七二五	
其他ノ費用	一・九〇二	輕白炭ニ同シ
運賃	一・八七五	
計	七・五〇二	

○收入

製品	數量	金額	備考
上	一六俵	六・四〇〇	一俵四十錢賣トシテ
並	八俵	二・八〇〇	一俵三十五錢賣トシテ
中	一俵	〇・二五〇	同
計	二五俵	九・四五〇	

○差引利益金 一圓九十四錢八厘

一窯ノ原料二九三棚一棚ノ立木代六十六錢五厘トナル
(三) 鍛冶屋炭(一室ニ付七十俵)

○支出

種	類	數	量	單價	總價	備考
築窯費	消却	1/30		一五〇〇〇	〇・五〇〇	三十回燒
燒歩	落駄炭	五	五俵	〇〇五〇	二・七五〇	伐採運搬及ビ燒上荷造共
	枝消炭	一	五俵	〇一〇〇	一・五〇〇	
倭代	葉	五	五俵	〇〇一四	〇・七七〇	落駄炭ノ俵
	萱	一	五俵	〇〇一七	〇・二五五	枝消炭ノ俵
繩代	細	五	五俵分	〇〇〇三	〇・一六五	落駄炭ニ用フ
	太	一	五俵分	〇〇〇六	〇〇九〇	枝消炭ニ用フ
木札	代	一	五枚	〇〇〇四	〇〇六〇	同
管	理費	七	〇俵分	〇〇一〇	〇・七〇〇	
運賃	落駄炭	五	五俵分	〇〇四〇	二・二〇〇	
	枝消炭	一	五俵分	〇〇七五	一・一二五	
計		七	〇俵		九・九五〇	

〇收入

種	類	數	量	單價	總價	備考
落駄	炭	五	五俵	〇・一五〇	八・二五〇	樅樽松ノ消炭

種	類	數	量	單價	總價	備考
枝消	炭	一	五俵	〇・二五〇	三・七五〇	同上 枝炭
計		七	〇俵		一二・〇〇〇	

〇差引利益金 二圓〇五錢

一窯ノ原料二十一石、一石ノ立木代九錢八厘トナル

三 雜產物

本林ヨリ生産スル雜產物ハ大凡次ニ列舉スル如シ

椎茸 之レ本學ノ自營ニシテ多クハこならヨリ發生セシメ品質良好ナリ

醋酸石灰 從來本林ノ試驗製炭窯ヨリ生産セシガ暫ク中絶シ目下之ガ改良

方法ニ付キ種々試驗研究ヲナシツツアリ

萱 一部萱場ヲ保存シ地方向屋根葺用ニ供ス

桑葉 林内自生ノ桑葉ヲ地元民ノ春蠶用ニ供ス

石材 林内ヨリ産スル稍堅質ノ石材ニシテ土工用及ビ建築用ニ供ス

其他漁火用肥松、漁用浮木ニ用フルぬるで、洋傘ノ柄、杖等ニ用フル雜樹又ハ五倍

子黃蓮等幾分生産ス

四 林 道

本演習林設置ノ當時ニアリテハ林内只僅カニ山路小徑ノ通ズルノミニシテ林産物ノ運搬ハ元ヨリ巡林ト雖モ自由ナラズ依テ本林創始以來銳意林道ノ開設ニ力ヲ盡シ現今ニテハ略豫定ノ部分ハ完成セリ即チ明治三十一年以來開設セシ林道次ノ如シ

演習林林道(車馬ヲ通ズルモノ)一覽

名稱	區 間	延 長	路 幅	大 勾 配	起 工 年 度	竣 工 年 度
猪川林道	郷臺如北方小屋ノ澤ヨリ猪川流域ニ沿フテ折木澤地先思澤ニ終ル	一里一町二十四間	七尺	1/20 一間三付	明治四十四年度	正大三年度
右接續線	郷臺下相澤橋南詰ヨリ猪川林道南端ニ至ル	二町十七間	七尺		同四十二年度	正大三年度
相澤林道	郷臺畑苗圃下相澤橋南詰ヨリ相澤本流ニ沿フテ上リ東ノ澤上ニ於テ和泉道上部ニ合ス	二十八町二十五間	七尺	1/10 六寸	同三十八年度	明治四十一年度
四郎治林道	橋ノ澤相ノ澤境ヨリ四郎治澤東部ヲタヒテ赤井澤上ノ澤上チヘテ札郷ニ至ルモノ	一里一町二十五間	七尺	1/12 五寸	同三十七年度	同三十八年度

郷臺林道	仁ノ澤林道	一杯水林道	本澤林道	一杯水間林道
清澄派出所ヨリ郷臺畑寄舎ニ至ル本林境界ニ沿フ	清澄船ノ澤ヨリ舊街道ヲ過キ仁ノ澤本流ニ沿ヒ仁ノ澤苗圃下ニ終ル	清澄妙見腰ニ始マリ梨木臺櫻ケ尾ヲ經テ一杯水ニ終ル	坂本部落ヨリ二間川流域ニ沿フテ足谷地内入口ニ至ル	足谷ヨリ溪流ニ沿フテ一杯水製炭試験所ニ至ル
二里〇町二十八間	十六町十二間	二十一町四十二間	二十三町四十七間	十一町二十間
七尺	五尺	七尺	七尺	七尺
1/10 六寸	1/30 二寸	1/30 二寸	1/17 三寸五分	1/17 三寸五分
同三十一年度	同三十四年度	同三十三年度	同四十一年度	正四年度
同三十二年度	同三十八年度	同三十五年度	正三年度	正四年度

以上ノ外所謂巡林道路ハ林内縦横ニ開設セリ

演習林内諸要地點里程表

發 點	經 由 地 點	終 點	里 程
派 出 所	荒塚、池ノ澤、龜ノ澤 東條入會山林ト本林トノ境界線	郷臺寄舎	二里〇町二十八間
同	縣道七曲リ路ヨリ分岐(鉛筆ビヤノシン見本林ノ所ニテ)	本澤林道遠矢ヶ臺下トシテ下口	二十三町十五間

派出所	諸戸林道	札郷寄宿舍	一里三十町
郷臺寄宿舍	同	龜ノ澤造林試驗地	一里十二町二十九間
派出所	縣道ニヨリ七曲リ	武者戸野獸園、椎茸栽培所	二十四町五十九間
同	清澄寺境内新町松葉	同	二十四町十七間
同	船ノ澤、仁ノ澤	仁ノ澤苗圃養魚池跡	十九町十九間
同	妙見腰、下馬不動、梨ノ木臺、櫻ヶ尾	一杯水向峯三逢ヒ	二十一町十五間
椎茸栽培所	本澤林道	坂本部落入口	二十八町四十三間
派出所	鹿島經由	淺間山絶頂	十四町三十四間
郷臺寄宿舍	小屋ノ澤、猪川林道	折木澤縣道接續	六町十七間
同	猪川林道	瀧ノ川製炭炭所	一里十四町三十五間
派出所	縣道	内國樹種見本林松野紀念碑	十三町四十三間
同	縣道七曲リ	外國種樹見本林中央部	十五町五十五間
同	清澄寺境内大久保道	鍛冶屋向峯三逢	十八町〇間
同	同 新町松葉小屋ヶ尾	硯石三逢クス造林地	二十四町四十間
榎尾監視所	諸戸林道	郷臺寄宿舍	三十町二十七間
		櫻ヶ尾杉美林	十五町四十三間
派出所			一杯水行路中

第五 學生々徒ノ演習

同	一杯水林道終點ヨリ山ヲ降リテ五町半	一杯水製炭乾餾試驗町	一杯水林道終點
同		大ベラ造林地治水試驗地	一杯水足谷間林道ノ基點部分
郷臺寄宿舍	相ノ澤三十三曲リ、和勢道、四郎治林道	札郷寄宿舍	一里十四町五十一間
派出所	大見山下、大降西	三木松縣道接合點	二十五町五十間
清澄郷臺間近路	濁川中林地		一里五町十二間

本林ニ於テ定期ニ行ハルル學生々徒ノ演習ハ造林學、森林測量學、測樹學、森林經理學及ビ地質學等ノ實習ニシテ其他臨時ニ學術ノ研究及ビ實習ヲ行ハシム此等定期ノ演習ハ多ク春季夏季及ビ冬季ニ於ケル學業ノ休暇ヲ利用シテ行ハルルモノニシテ受持教官自ラ之ヲ實地ニ指導シ學生ヲシテ實際ノ技術ニ練熟セシメ且學科ト實地林業トノ應用的關係ヲ了得セシムルコトヲ目的トス

本林ハ學生ノ演習ニ適セシムベク多年經營ノ結果其模範的林分配置、見本林、試驗事業等學生ノ實習研究ニ適セル設備ヲナシ且學生宿泊ノ爲メ清澄郷臺畑、及ビ札郷ノ三箇所ニ各一棟ノ寄宿舍ヲ設ケタリ

第六 試驗事項

本林ニテハ凡ソ林業林學ニ必要ナル事項ハ總テ之ガ試驗研究ヲナサントシ今日マデニ之ヲ實行シタルコト亦少シトセズ然レドモ或ル事項ニ就テハ相當ノ結果ヲ得ルモ或ルモノハ殆ンド成績ノ見ルベキモノナクシテ終レルモノ少ナカラズ今其試驗事項中主ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

一 養魚試驗

明治三十三年十二月奥山地内字今澄ニ小養魚池ヲ設置シ日光中禪寺湖産鱒魚ノ卵二萬個ヲ取寄セ人工孵化ヲ行ヒタルニ成績頗ル良好ナリシヲ以テ更ニ又次年ニ二萬個ヲ孵化シタリ然ルニ仔魚ノ漸ク生長スルニ從ヒ或ハ斃死或ハ盲目トナリ又かはせみ、いたち等ニ捕ハルルコト多ク之レ恐ラク其養魚池狹隘ニ失スル爲メナラント思ハレタルヲ以テ明治三十六年ニ孵化後直チニ之ヲ清澄本流ニ放流シタルニ大雨ノ至ル毎ニ流失シ成績舉ラズ故ニ翌年更ニ奥山字仁ノ澤ニ於テ七里川ノ上流ヲ堰キ約三百十坪ノ新池ヲ作り稍、大規模ニ之ガ試驗ヲ行ヒシモ之レ又結果不良ニ終レリ之レヲ要スルニ當地方ハ鱒ノ養成ニ對シテハ溫度稍、高キ

ニ過ギ又大雨ノ際濁水ノ混入スルコト多キ爲メ完全ニ發育シ能ハザルナラントノ結論ニ達セリ

二 葉製樟腦ノ試驗

明治三十八年頃ヨリ清澄字小屋ヶ尾地内ニ葉製樟腦蒸溜器ヲ裝置シ明治三十三年度ニ植栽シタル樟腦ノ葉ニヨリ製腦ヲ試驗シタリ其成績相當ナリシガ未ダ經濟的ノ好果ヲ舉グル能ハズ又其原料モ十分ナラザリシヲ以テ明治四十四年一先ヅ之ヲ中止セリ

三 製炭及ビ乾溜試驗

明治三十七年以來字丸山、十面澤、八瀬尾、東ノ澤等各所ニ於テ先ヅ製炭ニ付キ各種ノ試驗ヲ行ヒ其原料炭材ヨリ得ベキ製炭ノ割合、白炭、黑炭ニ就テノ各種築窯法ノ改良又白炭ノ燃燒度並ニ煉シ程度或ハ半燒炭即チ赤木炭ノ製造等ニ就キ數多ノ實驗ヲナセリ即チ現今實行スル本學自營ノ製炭法ハ之等試驗ノ結果ヨリ得タルモノナリ

又製炭ト同時ニ日本式炭窯ヨリ木醋液ヲ採集シ醋酸石灰ノ製造ヲ數年間實行セリ彼ノ現時各地方ニ多ク行ハルル空氣冷却ノ裝置ハ主トシテ本林ノ試驗ニヨ

ルモノナリ

又最近(大正三年ヨリ)字一杯水ニ於テ石造窯ニヨリ木材乾溜ノ試験ヲ始メ醋酸石灰及ビ木精ノ採集方法ニ就キ研究中ニシテ今ヤ良好ナル結果ヲ收メツツアリ

四 椎茸培養試験

明治四十一年度ヨリ字小屋ケ尾ニ椎茸培養場ヲ設ケ此附近ニ多ク存在スルコ
ならヲ櫛木トシ人工ニテ種付ヲナシ培養シタルニ頗ル好果ヲ得其生産量相當多
額ニ達セリ

五 各種造林試験

大正四年春期ヨリ奥山字龜ノ澤及ビ清澄字小屋ケ尾ニ造林試験地ヲ設ケ主ト
シテすぎひのきニ就キ山腹山背溪谷ニ於ケル造林ノ成績又植栽距離挿木造林母
樹ノ産地及ビ年齢等ニ就キテノ試験ヲナスコトトセリ

六 森林氣象觀測

本演習林設置後幾許モナク清澄ニ森林氣象觀測ニ就テノ設備ヲ爲シ空氣溫度
降水量風力等ノ觀測ヲ爲シ又近來森林地内トシテ郷臺畑ニ同様ノ設備ヲ設ケ以
テ各地ノ比較研究ヲナサントス

七 森林治水試験

大正二年清澄字足谷ノ地二十三町二反歩ノ區域ヲ劃シ其小澤ヨリ本流ニ灌グ
溪口ヲ掘シ石堰堤ヲ設ケ自記檢潮器ヲ裝置シ溪水ノ量ヲ測定スルト同時ニ其時
時ニ於ケル流域一體ノ林相ヲ調査シ以テ林相ノ變化ガ流水ニ如何ナル影響ヲ及
ボスカヲ實驗シツツアリ

八 野生動物飼養試験

明治四十二年小屋ケ尾字武者土ニ約三町歩ノ區域ヲ劃シ森林ニ棲息スル各種
野生動物ノ飼養ヲ爲シ是ガ繁殖及ビ棲息ノ狀態其利用價值竝ニ農林業ニ對スル
利害關係ヲ調査研究スルコトトシ先ヅ奈良公園ヨリ日本固有ノ鹿三頭ヲ取寄セ
飼育シタルニ今日ニテハ其數十數頭ニ達セリ又朝鮮產獐ノ鹿一對及ビ獨逸產
だむ鹿一對ヲ取寄セ飼育シタルガのろ鹿ハ氣候ニ適セザルカ牝牡トモ病死シ又
だむ鹿ノ牡ハ負傷シテ死シ今ハ其牝一頭ノミ生存ス尙將來之ヲ擴張シ各種野生
鳥獸ノ飼養ヲ試ミントシ差當リ雉ノ飼養ヲ始メタリ

第七 見本林

本林設置後明治三十年清澄字長坂、七曲リ、及ビ地藏堂堀ニ合計面積十二町五反八畝歩ノ地ヲ選定シ見本林ヲ設置シ内外國各種ノ林木ヲ團狀的ニ植栽セリ其主目的ハ各種林木ノ單純林ノ標本ヲ造ルニ在リ

附録一

演習林樹木名彙

針葉樹類

いちじく科

Texaceae.

イヌガヤ

Cephalotaxus drupacea, S. et Z.

カヤ

Torreya nucifera, S. et Z.

まじ科

Pinaceae.

クロマツ

Pinus Thunm. bergii, Parl.

アカマツ

P. densiflora, S. et Z.

ヒメマツ

P. parviflora, S. et Z.

ツカ

Tsuga Sieboldii, Carr.

ヒノキ

Abies firma, S. et Z.

スギ

Oryzomenia japonica, Don.

アスナロ

Thujo s. dolabrata, S. et Z.

ヒノキ

Chamaecyparis obtusa, S. et Z.

附録 演習林樹木名彙

闊葉樹類

サハラ

C. psilota S. et Z.

せんりやう科

Chloranthaceae.

セッコク

Chl. ranthus brachysta elyrs, Bl.

くるみ科

Juglandaceae.

ホニグス

Juglans Sieboldiana, Maxim.

ノグス(ノブノキ) *Platy carya strobilacea*, S. et Z.

やまもも科

Myricaceae.

ヤマボ

Myrica rubra, S. et Z.

やなぎ科

Salicaceae.

ヤナギ

Populus tremula, L. var. *Villosa*, Wesm.

カンヤナギ

Salix purpurea, L. subsp. *amplexicaulis*, Boiss.

インヤナギ *S. Sieboldiana*, Bl.
 コロヤナギ *S. rubra*, L.
 ネロヤナギ *S. gracilistyla*, Miq.
 シズヤナギ *S. japonica*, Thunb.

かほのき科

Betulaceae.

イヌシデ(シロ) *Carpinus yedoensis*, Maoc.
 シデ(クヤマシデ) *C. disjuncta* (S. et Z.)
 サハシメ *C. cordata*, Bl.
 シンシキ *Alnus japonica*, S. et Z.
 ヤブシノキ *A. incana*, Willd. var. *sibirica*, Spach.
 ヤシヤブシ *A. pinnu*, S. et Z. var. *Yasuii*, Winkl.

かしは科

Fagaceae.

イヌブナ *Fagus japonica*, Maxim.
 シリアカガシ *Panusia glabra*, Oerst.
 クリ *Castanea sativa*, Mill.
 シロ *Panusia cuspidata*, Oerst.
 マラバシロ *P. edulis*, Makino.
 クヌギ *Quercus acutissima*, Carr.
 コナラ *Q. glandulifera*, Bl.

カシノ *Q. dentata*, Thunb.

ミズナラ *Q. grossoserrata*, Bl.

*ホホナラ *Q. crispata*, Bl. 縹色葉

ウバメガシ *Q. ilex*, L. var. *phillyaeoides*, Franch.

アラカミ(シロカミ) *Q. glauca*, Thunb.

シラカミ *Q. myrsinaefolia*, Bl.

ウラシロガシ *Q. stenophylla*, Makino.

シクバネガシ *Q. sessilifolia*, Bl.

イチゴガシ *Q. gilva*, Bl.

アカシメ *Q. acuta*, Thunb.

しのば科

Ulmaceae.

シメツバ *Ulmus campestris*, Sin. var. *laevis*, Planch.

シノキ *Celtis sinensis*, Pers. var. *japonica*, Nakai.

ムクノキ *Aphananthe aspera*, Planch.

タチキ *Zelkova serrata* Mak.

くさば科

Moraceae.

クヌハ(ヤブクヌ) *Morus alba*, L. var. *stylesea*, Bur.

カウソ *Broussonetia Kazinoki*, Sieb.

ロメカウソ *B. papyrifera*, Vent. var. *japonica*, Bl.

イタビカウソ *Ficus povesata*, Wall.

ロメイタビ *F. Thunbergii*, Maxim.

イヌビロ *F. erecta*, Thunb.

ホノノイヌビロ *F. erecta*, Thunb. var. *Sieboldii*, King.

しらのき科

Urticaceae.

ヤナギイナゴ *Debregeasia edulis*, Wedd.

やどりぎ科

Loranthaceae.

ヤシメ *Loranthus Kraempferi*, Maxim.

ロンギスヤシメ *Viscum japonicum*, Thunb.

ヤシメ *V. album*, L.

しんじのき科

Santalaceae.

シクバネ *Buckleya Joa*, Mak.

もくろん科

Magnoliaceae.

コノシ *Magnolia Kobus*, DC.

ホノノキ *M. hypoleuca*, S. et Z. var. *concolor*, Miq.

ヤブツサ *Schizandra chinensis*, Baill.

クナハカマ *Kadsura japonica* Juss.

シキ *Illicium anisatum*, L.

あかしのき科

Trochodendraceae.

カミラ *Cercidiphyllum japonicum*, S. et Z.

フサツクラ *Euptelea polyantha*, S. et Z.

ヤブツバ *(ヤブツバノキ) Trochodendron aralioides*, S. et Z.

あなごき科

Lardirabalaceae.

イゴ *Stemtonia hexaphylla*, Decne.

アキゴ *Akebia quinata*, Decne.

ウシメ *A. lobata* Decne.

ヒメメ *"* var. *pentaphylla*, Makino.

あざき科

Berberidaceae.

アザ *Berberis Thunbergii*, DC. var. *Maximowiczii*, F.S.

コロシ *Coronilla japonica*, B. vulgaris, L. var. *japonica*, Egl.

クノシ *B. Sieboldii*, Miq.

しんじのき科

Menispermaceae.

千葉縣下演習林概要

アマツミラノヤ *Cocculus Thunbergii*, DC. var. *sibiricola*,

Miq.

オホツツナフヤ *C. diversifolius*, Miq.

くす科

Lauraceae.

クスノキ *Cinnamomum Camphora*, Nees, et Fiberm.

ヤブニツケイ *C. pedunculatum*, Nees.

タナ(イヌクス) *Macclilus Thunbergii*, S. et Z.

アチガシ *M. longifolia*, Bl.

バリバリノキ(アオカキノキ) *Actinodaphne acuminata*,

Meisn.

シロダモ *Litsea glauca*, Sieb.

イヌガシ *L. aciculate*, Bl.

カビノキ *L. laudifolia*, Villhar.

メスイロハ *L. japonica*, Juss.

シロモシ *Lindera triloba*, Bl.

カナクキノキ *L. Thunbergii*, Makino.

クロモシ *L. umbellata*, Thunb.

ヤマカウバシ *L. glauca*, Bl.

アブラチヤン *L. pterocox*, Bl.

四四

ゆりのした科 Saxifragaceae.

バイクラウツキ *Phthalidaphus Sasami*, Sieb.

ウツギ *Dentzia crenata*, Thunb. var. *crenata*

Mak.

ツルハツツキ *D. sinoboliama*.

コノツツキ *D. gracilis*, S. et Z.

ガクウツツキ *Hydrangeabirta*, S. et Z.

ノボウツツキ *H. virens*, Sieb.

タツツツツキ *H. paniculata*, Sieb.

コトウツツキ *H. involucrata*, Sieb.

サノツツツツキ *H. petiolaris*, S. et Z. var. *cordifolia*,

Max.

イハガラシ *H. opuloides*, K. Koch. var. *angustata*,

Schneid.

アマチヤノキ *Schizophragma hydrangeoides*, S. et Z.

オシロイバナ *Hydrangea Thunbergii*, Sieb.

オシロイバナ *Hamamelidaceae.*

イヌノキ *Diaphllum recenseum*, S. et Z.

アツツツツ科 *Pittosporaceae.*

アツツツ

Pittosporum Tobira, Ait.

はら科

Rosaceae.

ロザンギク *Prunus Iosokura*, Sieb.

ヤブギク *P. donarium*, Sieb.

ミヤズギク *P. Maximowiczii*, Rupr.

イヌギク *P. incisa*, Thunb.

ウハミツサクラ *P. Grayana*, Max.

チウシギク *P. crassipes*, Koiz.

イヌギク *P. Baergeriana*, Miq.

シロリザクラ *P. Siori*, Fr. Schim.

マダチノキ *P. macrophylla*, S. et Z.

リンボク *P. spinulosa*, S. et Z.

ザイフリボク *Anelanchier asiatica*, Enell.

カイツカ *Phacelia villosa*, DC.

カナメモチ *P. glabra*, Max.

ギン *Eriobotrya japonica*, Lindl.

アツキナシ *Micromela alnifolia*, Koehne.

ズミノキ *Cornus Tschonoskii*, Koiz.

シヤリンバイ *Raphiolepis umbellata*, Makino.

附録 演習林樹木名彙

ハツメカシキ

Stephanandra incisa, (Thunb) Zabel.

カサギ

Spiraea japonica, L. P.

ヤブツキ

Chaenomeles lagenaria, Koiz.

ノイヌ

Kerria japonica, DC.

ギンギク

Rosa molliflora, Thunb.

ニホヤチ

Rubus palmatus, Thunb.

クロヤチ

R. incisus, Thunb.

ハシロヤチ

R. Kinashii, Lovel. et Vent.

ヤブナミ

R. pelatus, Maxim.

ハシロヤチ

Pirus sinensis, Lindl.

ハシロヤチ

Leguminosae.

ハシロヤチ

Albizia julibrissin, Boiv.

ハシロヤチ

Sophora japonica, L.

ハシロヤチ

Lespedeza bicolor, Turz. var. *inter-*

ハシロヤチ

media, Max.

ハシロヤチ

L. Baergeri, Miq.

ハシロヤチ

L. cyrtobotrya, Miq.

ハシロヤチ

L. atomentosa, Sieb.

ハシロヤチ

Millettia plorionda, Maxim.

四五

ミヤマトムラ *Euclesta japonica*, Benth.
 ユクノキ *Cladrastis shikokiana*, Makino.
 イメエンジュ *C. amurensis*, Benth.
 シヤクツイバラ *Caesalpinia sepiaria*, Roxb.
かんざら科 Rutaceae.
 サンペウ *Xanthoxylum piperitum*, DC.
 フエサンペウ *X. planispinum*, S. et Z.
 カラスザンペウ *Figara alianthoides*, Engl.
 イヌザンペウ *F. schinifolia*, Engl.
 コクサキ *Oriza japonica*, Thunb.
 ミヤノミキミ *Skinimia japonica*, Thunb.
 ウチダシ *ミヤノミキミ* var. *rugosa*, Yatabe.
 カラタチ *Pendagle trifoliata*, Mak.
 ヌズ *Citrus Aurantium*, L. subsp. *Junos*, Mak.

じがね科 Simarubaceae.

ニガキ *Picrosma gunnsioides*, Benn.

じしおかん科 Euphobiaceae.

アブラギリ *Aleurites cordata*, Sieud.

トネリン *Daphniphyllum macropodum*, Miq.
 アカメガミン *Mallotus japonicus*, Muell. Arg.
 シラキ *Excoecaria japonica*, Muell. Arg.
 ロメヂズリン *Daphniphyllum glaucescens*, Bl.
 カンロンキ *Glochidion obovatum*, S. et Z.

じゅんぱん科 Coriariaceae.

ホトマシキ *Coriaria japonica*, A. Gray.
いねこ科 Anardiaceae.

キヤンシ *Rhus sylvestris*, S. et Z.
 キヤカシ *R. trichocarpa*, Miq.
 シネカシ *R. Toxicodendron*, L. var. *vulgaris*, Pursh.
 クマシ *R. semi-alata*, Murr. var. *Osbeckii*, DC.
 ホンゴンキ *R. succedanea*, L.

あざの科 Agufaliaceae.

イヌシ *Ilex crenata*, Thunb.
 ホンノイヌシ *”* var. *microphylla*, Max.
 レバノイヌシ *”* var. *rotundifolia*, max.
 ホチノキ *L. Othera*, Spreng.

クロガネモチ *I. rotunda*, Thunb.

シヨチ *I. pedunculosa*, Miq.

タラエフ *I. latifolia*, Thunb.

アチンダ *I. dubia*, Trel. var. *macroloba*, Loesen.

ウメモチ *I. serrata*, Th. var. *Sieboldi* Loesn.

フウリンウメモチ *I. geniculata*, Max.

ナメシ *I. Oldhami*, Miq.

シメダ *I. rugosa*, Schmidt.

しんじゆ科 Celastraceae.

シネウメモチ *Celastrus articulatus*, Thunb.

イサキ *Euonymus japonica*, Thunb.

イト *E. europaea*, L. var. *Hamiltoniana*, Max.

ヒメキ *E. alata*, Thunb.

コイト *”* var. *striata*, Mak.

シヨブナ *E. oxyphyllus*, Miq.

シメイサキ *E. japonica*, Thunb. var. *radicans*, Miq.

コロソノシラシ *E. macropterus*, Rapp.

あしはら科 Staphyleaceae.

シズウシ *Staphylea Bumalda*, S. et Z.

セウシ *Turpinia penifera*, DC.

かへつ科 Aceraceae.

ウリカ *Acer crataegifolium*, S. et Z.

ウリシダカ *A. rufinerve*, S. et Z.

ホシ *A. palmatum*, Thunb. subsp. *genatinum*, Koidz.

トキハカ *(トキハカ)* *A. pictum*, Thunb.

アサヒカ *”* var. *dissectum*, Wessncl.

ヤシメスカ *A. carpinifolium*, S. et Z.

シナカ *A. rubrum*, L.

じゆの科 Hippocastanaceae.

イトシ *Acerulus turbinata*, Bl.

あしはら科 Sapindae.

*シクロ *Sapindus Mukurosi*, Gaertn.

あしはら科 Sabiaceae.

アチカシ *Sabia japonica*, Max.

アロシ *Meliosma myriantha*, S. et Z.

しんじゆ科 Bhamnaceae.

クロウシ *Bhamnus japonica*, Max.

- クマキナギ *Berchemia racemosa*, S. et Z.
- ケンギナシ *Hovenia dulcis*, Thunb.
- ぢんぢやうぢや** **科** **Thymelaeaceae.**
- カンビ *Wikstroemia sikokiana*, Fr. et Sav.
- ミツヤマ *Edogeworthia chrysantha*, Lindl.
- オニミズリ *Daphne, pseudo-narcyzum*, A. Gr.
- ぶたご** **科** **Vitaceae.**
- ヤマブドウ *Vitis Coccinea*, Poll.
- エビヅル *V. Thunbergii*, S. et Z.
- ギヤウジヤノミ *V. plicuosa*, Thunb.
- ノブドウ *Ampelopsis heterophylla*, S. et Z. var. *Lavallei*, Planch.
- ツタ *Quinnaria Thunbergii*, Nakai.
- しなのき** **科** **Tiliaceae.**
- シナンキ *Tilia cordata*, Hill. var. *japonica*, Miq.
- せじあひ** **科** **Malvaceae.**
- ムクゲ *Hibiscus syriacus*, L.
- さるなし** **科** **Dilleniaceae.**
- シラクナヅル *Achmidia rufa*, Miq.

- ウタノコ *A. polygona*, Miq.
- ぢや** **科** **Theaceae.**
- サカキ *Eurya oclanacea*, Sycz.
- ヒサカキ *E. japonica*, Thunb. var. *Thunbergii*, Thw.
- ナツノミ *Stewartia pseudo-Camellia*, (Max.)
- モクロク *Trombo japonica*, Sycz.
- シズキ *T. japonica*, Nois. var. *hortensis*, Mak. (ナガバノヒサカキ)
- ぢや** **科** **Stachyuraceae.**
- キノヤ *Stachyurus pinnocx*, S. et Z.
- ぢや** **科** **Guttiferae.**
- キンシズメ *Hypericum petulum*, Thunb.
- いじり** **科** **Tlacourtiaceae.**
- イノギリ *Ilexia poly carpa*, Max.
- ぢや** **科** **Flacagnaceae.**
- フキズ *Flacagnus umbellata*, Thunb.
- ナシシロツ *Flacagnus pudgens*, Thunb.
- ナシツ *E. multiflora*, Thunb.

- マルバツミ *E. macrophylla*, Thunb.
- ツルツミ *E. glabra*, Thunb.
- みそはぎ** **科** **Lythraceae.**
- サルスバ *Lagerstroemia indica*, L.
- うご** **科** **Araliaceae.**
- ヌラノキ *Aralia chinensis*, L. var. *grubrescens*, (Fr. et Sav.)
- ウロキ *Ackrotopanax spinosum*, Seem.
- キツタ *Hedera Helix*, L.
- ハリギリ *Kalopanax richiiidius*, Miq.
- ヤシテ *Fatsia japonica*, Decne. et Planch.
- カクビシ *Giliberia trifida*, Mak.
- あさ** **科** **Cornia.**
- ヤイボウシ *Berthamia Kouso*, Nakai.
- ミツキ *Cornus controversa*, Hemsf.
- ハナイカダ *Helwingia japonica*, Dietr.
- アサキ *Arcelia japonica*, Thunb.
- *サシ *Merocarpium officinale*, Nakai.
- うり** **科** **Alangiaceae.**

- *ウリ *Alangium planifolium*, Harms. var. *geminum*, Wang. forma *cordatum*, Wang.
- り** **科** **Clethraceae.**
- ニキウ *Clethra barbinervis*, S. et Z.
- し** **科** **Ericaceae.**
- カヤマ *Rhododendron indicum*, Sweet. var. *Kiempteri*, Max.
- シズメ *R. dilatatum*, Miq.
- クハシ *R. quinquefolium*, Biss. et Mre.
- キリ *R. indicum*, Sweet. var. *obtusum*, Max.
- アサ *Pieris japonica*, Don.
- ホヤ *P. ovalifolia*, Don.
- ナシ *Vaccinium ellipticum*, Thunb.
- シズ *V. bracteatum*, Thunb.
- スノ *V. hirtum*, Thunb.
- カホ *V. var. Smallii*, A. Grig.
- イ *V. prestantis*, Lamb.
- サ *R. indicum*, Sweet. var. *macranthum*, Max.

おんりぎん科 Myrsinaceae.

- マイミンタチバナ *Myrsine capitelata*, Wall.
- ヤブカウシ *Ardisia japonica*, Bl.
- ツルカウシ *A. villosa*, Max.
- レンリヤウ *A. crispa*, DC.
- イヅボレンリヤウ *Maesa japonica*, Martizi, var. *latifolia*, Miq.

かしの科 Ebenaceae.

- ヤブガキ *Diospyros Kaki*, L. fil. var. *silvestris*, Mak.
- レンガキ *D. Lotus*, L. var. *typica*, Mak.

ちぢふたぎ科 Symplocaceae.

- シイノキ *Symplocas myrtaea*, S. et Z.
- クロハシ *S. caudata*, Wall.
- マリミノウミクロシ *S. crataegoides*, Ham. (サンフタギ)

さしの科 Styryacaceae.

- シロノキ *Syrax japonicum*, S. et Z.

めんせいの科 Oleaceae.

- ヤブムラサキ *C. mollis*, S. et Z.

- クサギ *Clerodendron trichotomum*, Thunb.

なすび科 Solanaceae.

- クワ *Lycium chinese*, Mill.

あかね科 Rubiaceae.

- アヲヒウシ *Damnacanthus indicus*, Gaertn. var. *geminus*, Mak.
- カギカズラ *Ourouparia rynchophylla*, (Miq.)
- *イナンギ *Leptodermis pulchella*, Yatabe.
- シロズネノキ *Damnacanthus indicus*, Gaertn. var. *major*, Mak.

かひかひら科 Caprifoliaceae.

- クコネウツギ *DierVilla coracensis*, DC.
- シクヌネウツギ *Limnsea spathulata*, Griseb.
- ロンクヌネウツギ *L. serrata*, Griseb.
- タニウツギ *DierVilla japonica*, DC.
- スロカズラ *Lonicera japonica*, Thunb.
- ウツロヌカズラ *L. gracilipes*, Miq. var. *glabra*, Miq.
- キンギンギツ *L. Morrowii*, A. Gr.

- トネツク *Fraxinus Bungeana*, DC. var. *publincervis*, Wg.

- アチヌヒ (トメントキネツ) *F. longicaulis*, S. et Z.
- イネギ *Ligustrum Teota*, Sieb.
- オホスイネギ *L. medium*, Fr. et Sav.
- ホズミボチ *L. japonicum*, Thunb.
- ローラギ *Omanthus aquifolium*, S. et Z.

はなはな科 Loganiaceae.

- ホウライイカヅラ *Pseudogardneria nutans*, Kacib.

あぢらぎ科 Apocynaceae.

- サカキカヅラ *Anodendron laeve*, Maxim.
- ライカカヅラ *Trachelospermum divaricatum*, K. schum.

おんろ科 Boraginaceae.

- レンヌシヤノキ *Ehretia macrophylla*, Wall.

くさくさ科 Verbenaceae.

- ウラサキミキノ *Callierpa japonica*, Thunb.
- ホムラサキ *C. purpurea*, Juss.
- クロウケムツサキ *C. tomentosa*, Willd.

- ヒキアキ *Sambucus racemosa*, L. var. *Sieboldiana*, Miq.

- オハズキ *Viburnum dilatatum*, Thunb.

- ホズキ *V. erosum*, Thunb.

- ウラサキ *V. Wrightii*, Miq.

- ナンドイロ *V. tomentosum*, Thunb.

- ヒレギ *V. Sieboldi*, Miq.

- *オハカモノキ *V. furcatum*, Bl.

- オハチヂホ *V. odoratissimum*, Ker.

おの科 Compositae.

- カウヤバウキ *Pertya ovata*, Max.

- ナガバノカウヤバウキ *P. scandens*, Schultz-Bip.

單子葉樹類

くさくさ科 Gramineae.

- ヒゲキ *Phyllostachys rotundata*, Ksch. (P. bambusoides, S. et Z.)

- ヒナク *P. puberula*, Munro.

- ヒヂカクサ *P. edulis*, A. et C. Riv.

千葉縣下演習林概要

ネザサ
メダケ
ハコネダケ
クマザサ
ヤダケ
ゴメイザサ
サルトロイバラ

Arundinaria variabilis, Makino.
A. Simonii, Riv.
A. Chinensis, Makino.
Sasa albo-marginata, Makino et Shibata.
S. japonica, (S. et Z.) Makino (Arundinaria japonica, S. et Z.)
S. japonica Kunasasa, Mak.
Liliaceae.
Smilax China, L.

附録二

演習林杉形數表

高	サ	形	數
3,0			0,550
3,5			0,532
4,0			0,522
4,5			0,515
5,0			0,510
5,5			0,506
6,0			0,503
6,5			0,500
7,0			0,495
7,5			0,492
8,0			0,490
8,5			0,487
9,0			0,484
9,5			0,482
10,0			0,480
10,5			0,477
11,0			0,475
11,5			0,473
12,0			0,471
12,5			0,469
13,0			0,467
13,5			0,465
14,0			0,464
14,5			0,462
15,0			0,460
15,5			0,459
16,0			0,458
16,5			0,457
17,0			0,455

大正七年七月十六日印刷
大正七年七月二十日發行

東京帝國大學農科大學演習林

印刷者 渡邊 八太郎
東京市牛込區榎町七番地

印刷所 日清印刷株式會社
東京市牛込區榎町七番地

326
360

終

終